

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第1回）
開催日時	平成27年11月27日（金曜日）午後2時35分から午後4時27分
開催場所	保谷庁舎 防災センター6階 講座室2
出席者	委員：有澤会長・中村副会長・松村委員・小林委員・田中委員・佐藤委員・横張委員・中林委員・金木委員・後藤委員・山崎委員・小島委員・川添委員・横田委員・石川委員 欠席：新出委員 事務局：等々力課長・近藤・石部
議題	議題1 会長及び副会長の選出等について (1) 会長及び副会長選出 (2) 西東京市立学校給食運営審議会会議録について (3) 西東京市立学校給食運営審議会の傍聴について (4) 西東京市の学校給食の概要 議題2 学校給食について
会議資料の名称	資料1 西東京市立学校給食運営審議会委員名簿 資料2 西東京市非常勤特別職の報酬及び費用弁償等に関する条例 資料3 西東京市立学校給食運営審議会条例 資料4 西東京市立学校給食運営審議会条例施行規則 資料5 西東京市市民参加条例施行規則 資料6 西東京市立学校給食運営審議会傍聴要領 資料7 西東京市立学校給食の実施及び管理運営に関する規程 資料8 西東京市立学校給食審議会答申等一覧 資料9 給食費の見直しについて（意見） 資料10 西東京市立の小学校及び中学校の学校給食における給食費の見直しについて（答申） 資料11 西東京市立中学校完全給食について（意見） 資料12 西東京市の学校給食についての概要
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営課長より委嘱状及び任命書交付 ・学校運営課長挨拶 ・委員自己紹介 ・事務局自己紹介 <p>（出席委員15名、委員数16名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認）</p> <p>議題1 会長及び副会長の選出等について</p> <p>（1）会長及び副会長選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西東京市立学校給食運営審議会条例第5条第2項に基づき、委員より会長及び副会長を選出 ・会長については、委員の立候補及び推薦がなかったため、事務局より学識経験者の有澤委員を推薦し、出席委員全員の同意を得た。 ・副会長については、委員の立候補及び推薦がなかったため、会長より学校長代表の中村委員を推薦し、出席委員全員の同意を得た。 	

(2) 西東京市立学校給食運営審議会会議録について

- ・西東京市立学校給食運営審議会条例施行規則第4条及び西東京市市民参加条例施行規則第4条に基づき、会議録の作成、会議録の作成方法について確認。
- ・出席委員全員の同意により、要点記録とすることとした。

(3) 西東京市立学校給食運営審議会の傍聴について

- ・西東京市立学校給食運営審議会傍聴要領第2の規定により、会議会場の広さ等を勘案し、出席委員全員の同意により傍聴人の定員を5名と決定した。

(4) 西東京市の学校給食の概要

- ・事務局より、学校給食についての概要について説明を行った。

議題2 学校給食について

各委員の学校給食に対する意見等を聴取。

(主な意見等)

【保護者委員からの意見】

- ・担任による給食指導の差や、小学校と中学校での給食指導に差があるために、中学になると好き嫌いもはっきりするように感じる。
- ・家庭での親子の会話、兄弟間の会話にも給食のことが多く出る。子どもたちは給食が大好きだ。
- ・給食を通した親子の会話から、西東京のぶどうのことや地産地消についても学ぶことができた。
- ・中学のアレルギー対応ができない点が心配だ。
- ・学校生活での給食のウエイトは大きいものがある。栄養面ばかりでなく、さまざまな工夫が必要と考える。
- ・小学校の残食は少ないが、中学校になると残す生徒が多くなると聞いている。
- ・中学生の生徒からは、ご飯は冷めるので残したくなる、女子が牛乳を残すことが多く、お茶に替えることが出来ないか、喫食時間が少ない、牛乳を残す理由は温いからだ、という声を聞く。
- ・子どもたちは小学校と中学校のギャップを感じているようだ。また、栄養士の異動があると味が変わるということも聞く。
- ・調布での事件以降、親の責任も高まっていると感じる。
- ・試食会で実際に食べてみると、大変工夫されているという感想だ。ただし、生徒の体力によっては、足りないと感じる場合もあると思った。
- ・校庭でのお弁当給食、バイキング給食、リクエスト給食などさまざまな工夫がされており、子どもは給食を楽しみにしている。給食だよりで知る外国の料理などは、夕食の参考になっている。
- ・家では食べない食材でも、給食だと食べる人が多いようだ。

【学校側委員の意見】

- ・職員として美味しく食べているとともに、大人健康維持にも優れている。
- ・残菜量は担任の指導に左右される面を感じることもあるが、全体的には良く食べてくれている。
- ・中学は給食時間が少ないのは現実だが、喫食時間が足りないことが原因で食べ損なうということはない。稀に体育の授業後に遅れ気味になるクラスがあるが、職員全員でフォローしている。
- ・小学生は、学年の最初のうちは食べる量が少ない児童が、1年間の内に変化があるこ

とが多いし、食べられなかったメニューを克服することもある。学校だと食べられるという声も聞く。

- ・中学の残菜は、学年があがるにつれ男女差が現れてくる。男子にとって、パンの日は少なく感じる場合もあるのではないか。

- ・給食は、栄養バランスは優れており、1日30品目の目標の内、毎食17品目ほどを補っている。

- ・牛乳は保冷庫に入っているので温いということはないはずだし、食缶も冷めにくいものを使っているため、食べる前に冷たくなることはない。

- ・中学は親子給食のため、小学校で出来立てを食べていた児童が、中学で運ばれてきたものを食べれば違和感を持つと思う。

- ・中学の牛乳の残は、学校差が大きく、女子は回りにつられて残してしまうようだが、担任も中学校栄養士も努力してくれている。

- ・ご飯が冷めやすいのは、小学校も同様で、冬場は配っているうちには冷たくなってしまいうこともある。

- ・栄養士が異動しても、調理しているメンバーに変化がないので、味の変化は気持ちの部分が多いと思う。

- ・親子給食の調理員は、早朝6時半には出勤して作業を始め、多くの手をかけて作るために、栄養士は、事故を防ぐために細かい配慮が必要になる。あわせて、教職員のアレルギー児のチェックは重要で、調理中の混入だけでなく、食べる直前の点検、おかわり時、片付けの際のアレル源への接触にも気遣っている。

○会長：

西東京市は、給食に力を注いでおり、安全で美味しく、あわせて体と心の成長に役立つ給食の提供に心を砕いている。小学生と中学生、男女間の成長のスピードに差があることも事実であり、課題はいろいろとあるが、この会議をとおして解決法をさぐってまいりたい。

本日の会議は、散会とする。

以上